

高  
2023

国

語

始める前に左の注意事項を読みなさい。

- 始めの合図があるまで開いてはいけません。
- 問題は全部で16ページあります。
- 答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- 問題冊子、解答用紙のいずれにも受験番号、氏名を書きなさい。
- 質問のあるときは静かに手をあげ先生の指示を待ちなさい。
- 終わりの合図があったら、ただちに筆記用具を置きなさい。
- 問題冊子を持ち帰ってはいけません。

受験番号
氏 名
ふりがな .....

□ 次の【文章Ⅰ】は、小泉義之『デカルトⅡ哲学のすすめ』の一節です。【文章Ⅱ】は、【文章Ⅰ】を授業で読んだ生徒たちが、「言葉の力」というテーマで話し合いをした記録の一部です。それぞれの文章を読んで、後の問に答えなさい。

### 【文章Ⅰ】

人間には幾種類かの生活が与えられている。家庭生活、会社生活、政治生活、実生活、娯楽生活、年金生活などである。そして人間は、それらを区別して、<sup>①</sup>それぞれを特定の時間や特定の場所に割り当てている。たとえば、夕方からは家屋の中で親として家庭生活を送り、朝からは都会で社員として会社生活を送り、休日には田舎で消費者として娯楽生活を送る。そして人間は、それらの生活の相互依存関係や対立関係について考慮しながら生きている。ある人は家庭生活と会社生活と年金生活の關係に最も心を砕き、ある人は政治生活と実生活の關係について悩み、そしてある人は娯楽生活を最上の生活と考える。いずれにせよ、一生を通して、どのように複数の生活を配分するかということが、各人の人生に色合いの違いを与えている。

ところで、哲学・倫理学においては、どのように複数の生活が区別されて、どのようにそれらの關係が考えられているのだろうか。

かつて<sup>(注1)</sup>サルトルは、「飢えた子供の前で文学は無力か」という問いを立てたことがあった。そのときサルトルは、<sup>②</sup>飢餓という悲惨な現状を変革するための道徳的実践的生活と、文学を<sup>③</sup>生業とする作家の生活との關係を、問い質して<sup>た</sup>いたのである。遠いところで子供たちは飢えて死んでいるのに、自分は快適な書齋で<sup>(注2)</sup>タイプライターを叩いて<sup>た</sup>いる。飢えた子供を救済するべきであることは明白なのに、自分は文学を楽しみ、文学で消費さえも稼いでいる。この事態を真剣に問い直すと、<sup>④</sup>何かいたたまれない気持ちになるのだ。

〔注3〕 南北問題や内戦問題を、政治的経済的に受けとめるだけではなく、真剣に個人的にも受けとめようとするならば、サルトルの問いは現在でも重い。そして「文学」という語を、「会社」「大学」「学問」「国家」などに置き換えて、いくたびもサルトルの問いを反復する必要があるだろう。

ところでサルトル自身はどう答えたのか。サルトルによれば、悲惨な現状に対する無力感にさいなまれる人間を描くような文学、そして、悲惨な現状と無力な人間に対して異議申し立てを行うような文学があるとすれば、そのような文学は直接的にはないにしても、間接的には現状の変革を促進することになる。その限りで、飢えた子供の前でも文学は無罪であるし文学は無力ではないのである。

④ 近年、〔注4〕トマス・ネーゲルは次のように論じた。道德の〔注5〕要請は〔注6〕普遍的であるから、これを厳格に解するならば、個人が私的に享受している「良い生活」に対して、強い疑念をいだかざるをえない。道德的に正しく生きることと、良い生活を維持することは深く対立するように見える。

「それほど高くないニューヨークのレストランでの二人分の食事の代金は、バングラデシュでの平均年収に相当する。私は食べる必要に迫られて食べるのではなく、そこで食べたくて食べるにすぎないのだから、その代金は飢饉救済のために寄付された方が善いのだろう。同じことは多くの購買についても言えるだろう。衣服、ワイン、劇場、切符、余暇、贈り物、本、レコードなどである。……経済的配分に関してきわめて不平等である世界において、かなり上層に位置する人が慣れ親しんでいる生活を、不潔であるにしても充分に耐えられる生存の水準に切り下げるだけで、毎年、飢えた数十の家族を養うことができるのである。ここにおいて、飢饉と闘うための最善の方法は何であるかと論ずることは、問題の要点を外している」

★ このネーゲルの問いの立て方に対して、いわゆる〔注7〕共同体論者はこう反論してきた。確かに、飢えた子供を救えという道德的要請は普遍的であるから、飢えた子供がアフリカにいがが日本にいがが、わけへだて

なく救わなければならない。しかし他方において、自分の家族や近所の子供を飢えさせてはならないという道徳的要請も成立している。これは、遠くの子供に優先して、近くの子供を救うことを要請している。〔A〕、自分の良い生活を維持することは、<sup>⑤</sup>前者の要請にはそぐわないにしても、後者の要請には応じている。かくて良い生活を維持すること自体は、ネーゲルが思うような罪なのではない。むしろ、相互扶助や相互連帯の機能を伝統的に担ってきた地域共同体が破壊されていることが、飢饉を深刻にしている一因であるからには、世界の各所において、良い生活を、すなわち親密な友愛にみちた共同体を維持することこそが、飢饉の解消においても有効なのである。かくて普遍的道徳を**⑥**盾にとつて良い生活の放棄を迫ることは正しくないし、共同体を支えている人格価値を傷つける点で暴力的である。

たとえば、共同体論者の<sup>(注8)</sup>バーナード・ウィリアムズはこう論じた。救助隊員のあなたが、沈没事故の連絡を受けて現場に急行したとしよう。ところが、救助隊員のあなたが乗っている船には一人分の余裕しかないのに、現場では二人の人間が溺<sup>おぼ</sup>れていたとしよう。さらには、溺れている一人はあなたの恋人であり、もう一人は見ず知らずの他人であったとしよう。このとき、あなたはどのように選択するのが正しいだろうか。ウィリアムズはこう答えている。

X

【中略】

しかしこの種の反論によって問題が解消したのだろうか。〔B〕、玩具<sup>がんぐ</sup>の購入が問題であれば、ウィリアムズの言うように、遠くの子供より近くの子供を優先することに道徳上の罪はないであろう。しかし事は生死に関わっているのだ。

いつも不思議なのは、人間の生死は最も重大な問題であるはずなのに、最も算術的に処理しやすい問題になってしまうということである。二人を救助する方が一人を救助するよりも正しいということには、2が1より大きいということ以外に根拠はない。二人を救助できない場合には一人を選択して救助するのが正しいということには、

マイナス2よりマイナス1が大きいということ、マイナス1よりプラス1が大きいということ以外に根拠はない。

### 【中略】

私は C こう言いたい。救助隊員は躊躇なく二人を乗せるべきである。〈三人とも助かるか、それとも三人とも助からない〉のが最善であると思うからだ。現実の世俗的世界は、一度もそのような運命共同体を実現したことはない。核戦争ですら、政府指導者を含めた全員を一度に死なせることはできないのである。〈全員が生き残るか、それとも全員が死ぬ〉世界だけが、算術的道德によって一部の人間だけを優先するような状況を◎根こそぎにしてくれる。そして、生死に関してさえ、遠くより近くを優先して構わないとする。◎共同体論者はどこか過っているとしか言いようがない。共同体論者とは、遠くで何人死のうが(注9)痛痒を感じずに、先進資本主義国の良い生活を正当化する連中なのである。

### 【文章Ⅰ】

生徒A 今まで「文学」に、「現状の変革を促進する」力があると考えたことはなかったけれど、言われてみればほんとにそうだね。文学の中で書かれる「文章の力」によって、もつと言えば「言葉の力」によって、間接的にさまざまな人の現状を変えることができる。そういえば、こないだ先生が「文章を読むことで、教室にしながら世界の現実とつながり、自分が発する言葉によって、身近な世界のあり方を変えることができる」と言っていたなあ。これはつまり、言葉には「世界の現実を知り変える力」があるってことかな。

生徒B たしかにそうだね。「言葉の力」について考えたことがなかったけれど、自分の思いを訴えたり、感動を相手に伝えたり、反対に大切な人を傷つけてしまったらと、日常の中で私たちが体験する「言葉の力」は、たくさんあるよね。

生徒C 相手に影響を与える以外にも、「言葉の力」はさまざまな観点から考えられると思うよ。僕は、言葉には「考えを深めさせる力」があると思うなあ。書いているうちに、ぼんやりとした思いがはつきりしたり、新たな考えがひらめいたりする。これは、親しい人へ手紙を書くときや、授業の中で文章を書くときによく経験するね。相手だけではなく、自分自身に向かってはたらく「言葉の力」もあるんだね。

生徒D そういう考え方もできると思うよ。こうした「言葉の力」は、現代の人が書いた文章だけではなく、昔の人が書いた文章の中にもはたらいっているんじゃないかな。昔から今にかけて、「言葉の力」を人々がどのように理解してきたかを知ることが、言葉の新たな魅力を発見することにもつながっていくと思うなあ。

### 【語注】

- 1 サルトル …… フランスの哲学者、作家。
- 2 タイプライター …… 文字盤を打つことで文字を紙に打ち付け、印字する機械。
- 3 南北問題 …… 先進国と途上国の間で起こっている経済格差の問題。
- 4 トマス・ネーゲル …… アメリカの哲学者。
- 5 要請 …… 必要なことの実現のために、強く願い求めること。
- 6 普遍的 …… すべてのものに共通すること。特に哲学の用語としては、宇宙や世界の全体に關していえること。
- 7 共同体論者 …… 家族や地域などの共同体を重視する立場の哲学者。
- 8 バーナード・ウィリアムズ …… イギリスの道徳哲学者。
- 9 痛痒 …… 精神的、肉体的な苦痛。

問一 二重傍線部①「生業とする」・②「盾にとって」・③「根こそぎ」の本文中における意味として最もふさわしいものを、次の各群から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 生業とする

ア 仕事で優先される活動とする      イ 仕事の大きな部分を占める

ウ 生活の最も重要な活動とする      エ 生活するための仕事とする

② 盾にとって

ア 自分以外のものを犠牲にして      イ 自分だけが助かる方法として

ウ 自分を有利に導く手段として      エ 自分が不利になる状況にして

③ 根こそぎ

ア 最初から最後までずっと      イ 何も残らないほどすっきり

ウ ある一部分のみばかり      エ 誰も気づかないほどそっと

問二 

A
---

 $\sim$ 

C
---

 に入る最も適当な語を、次から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ただし、同じ記号は一度しか使えません。

ア だから      イ しかし      ウ 確かに      エ むしろ      オ ところで      カ すなわち

問三 傍線部①「それぞれを特定の時間や特定の場所に割り当てている」とありますが、これを言い換えている表現を【文章I】の中から探し、十字以内で抜き出して答えなさい。

問四 傍線部②「飢餓という悲惨な現状を変革する」とありますが、こうした現状を変革し、解消するために、何をするのが効果的であると「共同体論者」は述べていますか。【文章Ⅰ】の★印より後の本文中から二十字以内で探し、はじめの五字を抜き出して答えなさい。

問五 傍線部③「何かいたたまれない気持ちになるのだ」とありますが、それはなぜですか。その理由として最もふさわしいものを、次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の生活をどのように区別するべきか悩んでも、結論を出すことができず、これ以上辛抱することができないから。

イ 道徳的に正しく生きようと考えながらも、自分の生活との関係で思い悩み、平静な気持ちを保つことができないから。

ウ 道徳的実践的生活を優先することで、作家の生活を犠牲にしている現状を思い知らされ、気まずさを感じているから。

エ 飢えた子供を目の当たりにしながら、それを文章にして食費を稼いでいる自分の状況が、精神的に耐えられないから。

問六 傍線部④「近年、トマス・ネーゲルは次のように論じた」とありますが、本文において、筆者はどのような意図から「トマス・ネーゲル」の文章を引用していますか。その説明として最もふさわしいものを、次から選び、記号で答えなさい。

ア トマス・ネーゲルの文章を取り上げることで、サルトルの問いにも通じる例を示し、道徳的実践的生活と良い生活との関係性について、より具体的に議論していくため。

イ トマス・ネーゲルの文章を取り上げることで、サルトルとは異なる立場から道徳的実践的生活を解説し、それがいかに難しいものであるかを分かりやすく提示するため。

ウ トマス・ネーゲルの文章を取り上げることで、自分自身とは対立する意見をあえて紹介し、良い生活の捉え方は多様であり、さまざまな意見が存在することを示すため。

エ トマス・ネーゲルの文章を取り上げることで、良い生活のあり方についての最新の論を取り上げ、自分と同意見であることを示し、自分の意見に説得力を与えるため。

問七 傍線部⑤「前者の要請」とありますが、これが指している部分を【文章Ⅰ】の中から探し、はじめの五字を抜き出して答えなさい。

問八

X

に入る最も適当な文を、次から選び、記号で答えなさい。

ア あなたは躊躇なく他人を救出するべきである。

イ あなたは躊躇なく恋人を救出するべきである。

ウ あなたは躊躇なく二人を救出するべきである。

エ あなたは躊躇なく救出を断念するべきである。

問九 傍線部⑥「共同体論者はどこか過つているとしか言いようがない」とありますが、それはなぜですか。その理由として最もふさわしいものを、次から選び、記号で答えなさい。

ア 文学は人を変革に向けて動かす力を持っているため、飢えのような悲惨な状況に対しても力を発揮すると考えているから。

イ 近くの人の死は、自分の良い生活との関係で大きく取り上げるが、遠くの人の死は、問題として取り上げようとしなから。

ウ 運命共同体を実現することが、悲惨な現状を救済する上でも効果的であると信じ、その他の方法を検討しようとしなから。

エ 人間にとって最も大切な問題である生死についても、その優先度で判断して考え、個人の良い生活を守ろうとしているから。

問十 【文章Ⅱ】の生徒A～Dの意見を読み、そこから読み取れる内容として最もふさわしいものを、次から選び、記号で答えなさい。

ア ささまざまな観点から「言葉の力」を理解することで、相手の考えを深めさせたり、相手のまわりでおこっていることを知り、変化させたりする力を養うことができる。

イ 「言葉の力」を考えるときは、相手にどのような影響があるかを考えると同時に、自分にも影響があることを知っておくことで、より自分の思いが伝わりやすくなる。

ウ 「言葉の力」は、相手だけではなく、自分自身にもはたらくものであり、自分の思いをはっきりさせるときや、世界の現実を知り変えるときに、発揮される力である。

エ 昔の文章と今の文章とは、「言葉の力」の捉え方が大きく変化しているため、両者をむすびつけて考えずと、言葉の魅力を正しく理解できなくなってしまう。

〔二〕 次の文章は『平家物語』の一節(巻十一)で、八島(現在の香川県高松市付近)における戦闘で平家の軍勢と源氏の軍勢が激しい戦闘をした場面(矢で扇を射抜いた那須与一の名場面などある)の直後の部分である。これを読み、後の問に答えなさい。なお、ふりがなは現代仮名づかいとし、読みやすいように読点(・)を補った。

一日戦ひ暮らし、夜に入りければ、平家の船は沖に浮み、源氏は陸にうち上つて、<sup>(注1)</sup> 牟礼・高松の中なる野山に、陣をぞ取つたりける。<sup>①</sup> 源氏の兵どもは、この三日が間は寝ざりけり。一昨日、<sup>(注2)</sup> 摂津国渡辺・福島を出づるとて、大風大波に揺られて、まどろまず、昨日、<sup>(注3)</sup> 阿波国勝浦に着きて軍し、終夜、中山越え、今日又一日戦ひ暮らしたりければ、人も馬も皆疲れはてて、或いは甲を枕にし、或いは鎧の袖・<sup>(注4)</sup> 箆などを枕として、<sup>②</sup> 前後も知らずぞ臥しにける。されどその中に、<sup>③</sup> 判官と伊勢三郎は、寝ざりけり。判官は高き所にうち上つて、敵や寄すると遠見し給ふ。伊勢三郎は、窪き所に隠れ居て、敵寄せば、先づ馬の太腹射んとて待ちかけたり。平家の方には、<sup>(注6)</sup> 能登殿を大將軍として、その夜、夜討にせんと、支度せられたりけれども、越中次郎兵衛と、海老次郎が、先陣を争ふ程に、その夜も空しく明けにけり。寄せたりせば、源氏は<sup>④</sup> なじかはたまるべき。寄せざりけるこそ、<sup>⑤</sup> せめての運の極なれ。

【語注】

- 1 現在の香川県高松市付近の地名
- 2 現在の大阪府天満橋付近の地名
- 3 現在の徳島県勝浦付近の地名
- 4 矢を入れる武器
- 5 源義経のこと。伊勢三郎は源氏軍の武将の一人。
- 6 能登守であった平教経のこと。越中次郎兵衛と海老次郎は平家軍の武将たち。

問一 傍線部①「源氏の兵どもは、この三日が間は寝ざりけり」とあるが、源氏の軍勢はどうして三日間も寝なかつ

たのか、最も適当なものを、次から選び、記号で答えなさい。

ア ずっと船に乗って移動しており、その間、大風や大波で船がひどく揺れていたから。

イ いつ平家軍の夜襲があるか分からなかったので、ずっと警戒していたから。

ウ この間、船や徒歩で大移動し、そのまま平家軍との戦闘状態に入ったから。

エ 平家軍との決戦が近づき、将兵たちも興奮して眠ることができなかったから。

問二 傍線部②「前後も知らずぞ臥しにける」とあるが、これはどんな状態か、最も適当なものを、次から選び、

記号で答えなさい。

ア 源氏の将兵たちは、先を競うように素早く寝込んでしまったということ。

イ 源氏の将兵たちが、周りのことが分からなくなるほど深い眠りに落ちてしまったということ。

ウ 源氏の将兵たちは、身分の高い低いに関係なく、同じように寝ていたということ。

エ 源氏の将兵たちが、何も考えずに思い思いの姿で寝てしまったということ。

問三 傍線部③「判官と伊勢三郎は、寝ざりけり」とあるが、この二人が眠らなかつたのはなぜか、最も適当な

ものを、次から選び、記号で答えなさい。

ア この二人は、翌日の戦いのために作戦を練る必要があつたから。

イ この二人は、敵が攻めてくることが恐くて、寝ることができなかったから。

ウ この二人は、敵が攻めてきたらすぐに将兵を起こす役目を負っていたから。

エ この二人は、もし敵が攻めてきたら、応戦しようと考えていたから。

問四 傍線部④「なじかはたまるべき」の現代語訳として最も適当なものを、次から選び、記号で答えなさい。

ア どうやったら(源氏軍は)こらえきることができるのだろうか。

イ どこで(源氏軍は)集まって抵抗するのだろうか。

ウ (源氏軍のなかで)だれが戦えるのだろうか。

エ どうして(源氏軍が)耐えられようか、耐えられないだろう。

問五 傍線部⑤「せめての運の極なれ」とあるが、これはどういう意味か、最も適当なものを、次から選び、記号で答えなさい。

ア 平家軍の夜襲がなかったことは、源氏軍にとって幸運の極みだったということ。

イ 平家軍の夜襲をあらかじめ察知していた判官らは源氏軍の名将だということ。

ウ 平家軍が夜襲を仕掛けることができなかつたのは、平家の命運も尽きたということ。

エ 平家軍がつまらない先陣争いで夜襲のチャンスを失つたのは、墮落の極みだということ。

問六 この部分を授業で習つたはるおくんたちは、教室で話し合いをした。次の発言のなかで明らかに読解上問題があるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア はるお 『義経記』や『源平盛衰記』などでも大活躍する判官(源義経)は、ここでも大事な役割を果たしているね。さすが日本の歴史上、有数の武将というだけはあるね。

イ なつみ そうだね。三日間、寝ていない将兵たちを休ませたうえで、自分たちだけは寝ずにいたというのは、部下思いの立派なリーダーだったということも言えるね。

ウ あきこ そうかな。二人で起きていて応戦しても、実際に平家軍が夜襲をしたら、危なかったのではないかな。源氏軍はラッキーだったという方が正しいかもね。

エ ふゆき そうだね。平家軍が予定通りに夜襲をしていたら、源氏軍はやられていただろう。しかし、夜襲の準備を始める前に、平家軍で先陣の争いのいざこざが起こったのは、源氏軍にとって幸運だったということだね。

問七 『平家物語』の冒頭部分を次から選び、記号で答えなさい。

ア 月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。

イ 祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり、沙羅双樹の花の色、盛者必滅のことわりをあらはす。

ウ ゆく川の流れば絶えずして、しかももとの水にあらず。

エ つれづれなるままに、日暮らし碗に向ひて、心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。

三 次の語句や文法に関する問に答えなさい。

問一 次の各文の□には色を表す字が入るが、一つだけ違った色になるのはどれか、記号で答えなさい。

ア 彼女は、その能力が十分に評価され、会長候補として□羽の矢が立った。

イ 昔を振り返れば、実力もないのに生意気だった□二才の時代があった。

ウ 北欧に旅行した際に幻想的な□夜を体験することができた。

エ 周囲の意地悪や□眼視に耐えて、彼は自分の意志を貫き通した。

問二 次の四字熟語の□には数字が入るが、その数字を全部足すといくつになるか、算用数字で答えなさい。

ア 二束□文    イ □臓六腑    ウ 十人□色    エ □日千秋

問三 次の中で文法上、正しい敬語が使われているものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 何度も申し上げますが、そのご要望に沿うことはできません。

イ 何度もおっしゃいますが、そのご要望には沿うことはございません。

ウ 何度でも言いますが、そのご要望に沿うことはできかねます。

エ 何度、申されても、そのご要望には沿いかねます。

問四 ことわざの使い方が誤っているものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 気の毒だからといって、そんなに親切に「面倒をみることはないよ。「情けは人のためならず」と言うでしょう。

イ 「急がば、回れ」、時間がぎりぎりだからといって、無理な近道はしない方がいい。

ウ こんな年寄りの私でも、「枯れ木も山のにぎわい」といって、ご招待には応じた方がいいだろうね。

エ 「知らぬが仏」といって、何でも伝える方がいいとは限らない。このことは黙っておこう。

問五 次の中で、「甘い」という形容詞を正しく使用していないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 多くの若者が、甘い言葉に誘われて、思わぬ被害に遭ってしまった。

イ この部品がまた取れたのは、ねじが甘くなっているからだ。

ウ 子どもたちに欲しい物をプレゼントしてやったら、甘くするなど叱られた。

エ 今度、こんな失敗をしたら、もっと甘い目に合わせてやるよ。

#### 四 傍線部の漢字の読みを、それぞれ答えなさい。

① 緊急な事態に対しても万全の措置が取れるように準備する。

② 海外留学の費用もなんとか工面することができた。

③ 全国的な疾病対策センターの創設が必要とされている。

④ やるだけのことはやったので、後は運命に身を委ねる。

⑤ 長年の猛練習で培った体力を発揮して試合に勝つ。

五

傍線部のカタカナを、それぞれ漢字に直して答えなさい。

- ① 大人も子どももコウシュウ道徳は守らなければならない。
- ② 申込書のヒツス項目に記入漏れがないようにしよう。
- ③ 公園の周囲に自転車のセンヨウ道路が整備された。
- ④ 書きソコなった紙も大事に取っておく。
- ⑤ 天気がよいと父のキゲンもよくなる。